

第6回

ダニエル・カールの

聞きたい！消防団

～富士山のお膝元 静岡県富士宮市消防団～

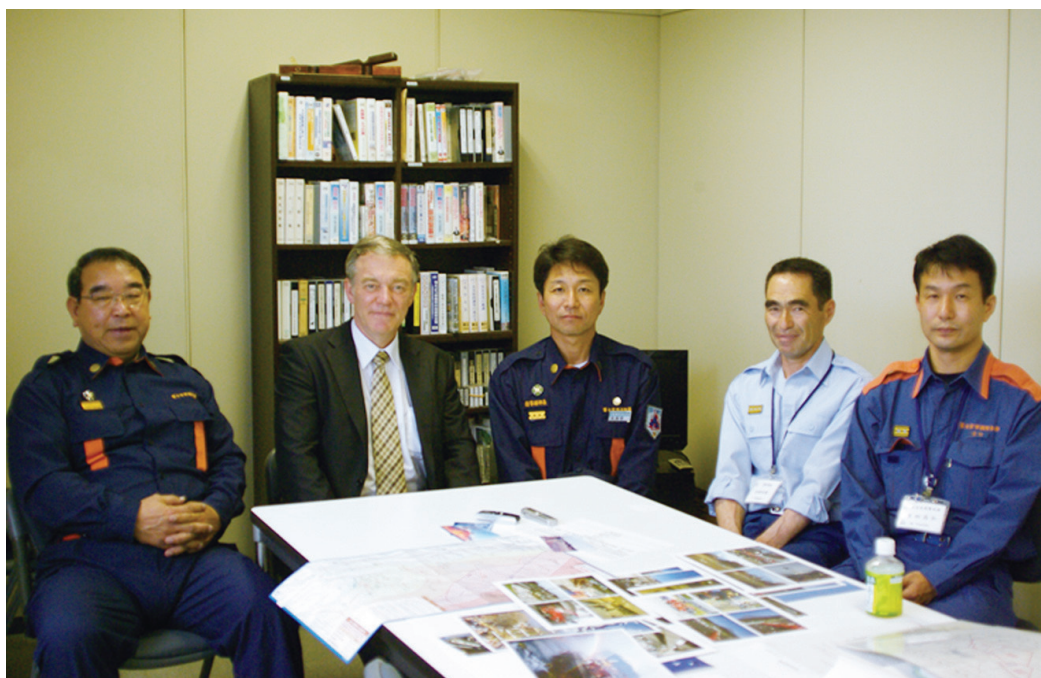
今回は、富士山の世界文化遺産登録に沸く静岡県富士宮市をお訪ねしました。

実は、私は富士宮市とはちょっと縁がありまして、B級グルメとして有名な「富士宮やきそば学会」の親善大使の任命を受けています。

今日のお昼はお宮横丁という所で、3店の焼

きそばの味を食べ比べましたが、どれも個性的で甲乙つけがたかったですね。

では、富士宮市消防団の加藤忠彦副団長、後藤修一指導副部長、富士宮市消防本部の仲神竹雄警防課長、吉田昌弘警防主幹の皆さんからお話を伺いましょう。



左から、加藤副団長、ダニエル・カール、後藤副部長、仲神課長、吉田主幹
(富士宮市消防本部内の消防団長室にて撮影)

(注) 今号から、「消防団コラム」は「聞きたい！消防団」に改題しました。

富士宮市と消防団について

ダニエル 本日はよろしくお願いします。まず、富士宮市について教えてください。

吉田主幹 富士山の西南麓に広がる富士宮市は、富士山を御神体として平安時代に造営されたといわれる富士山本宮浅間大社の門前町として栄えてきました。気候は温暖で、豊かな自然に恵まれ、世界文化遺産登録が間近（(注)訪問日は5月30日）となっている富士山を筆頭に観光資源が多く、魅力あふれる市となっています。

ダニエル 焼きそばも有名ですね。焼き方やソースなどいろいろとバラエティが豊富で、味はもちろんいいですけど、飽きないです。

吉田主幹 職員もほぼ毎日、いろいろな店で食べています。

ダニエル 焼きそばのことはまだお話したいこともあります。今回はここまでにします(笑)。では、消防団について教えてください。

吉田主幹 現在は、713人の団員がいます。消防団には6つの方面隊があり、それらは28分団で構成されています。1つの分団に1~2台の車両が配備され、消防車は全体で42台あり、地震・台風などの災害のときに地区を巡回するなどの活動を行っています。

ダニエル 主にどのようなかたが団員になっているのでしょうか。

仲神課長 約7割がサラリーマンです。全国的な傾向と同じですね。消防団に協力をしてくれる事業所（消防団協力事業所）には表彰を行うなど、サラリーマン団員が出勤しやすい環境整備に力を入れています。

ダニエル 平均年齢は…?

加藤副団長 平均年齢は40歳前後ですね。

ダニエル どんな広報活動を行っているんですか。

吉田主幹 イベントなどに積極的に参加して、地域に消防団をPRしています。お祭り、花火教室、消防操法大会、消防フェスティバルなどなど。出初め式にも熱心です。消防団内には、はしご隊があるのですが、今は静岡県内では、うちを含めて2つしかないですね。出初め式の写真展が開かれるなど、市民にも認知度が高い行事です。



出初め式でのパレード



女性消防団員の花火教室

噴火と地震

ダニエル 防災関係の皆さんがいちばん心配されているのは、やはり富士山の噴火でしょうか。

加藤副団長 ここ最近、いわれるようになりました。3、4年くらい前は特に話題になることもなかったのですが。私が小さい頃は、富士山は休火山と教わっていましたが、最近の報道では活火山といわれていますね。2年前には、富士山の中腹、2合目付近を震源とする震度6強の大きな地震が起きました（注）平成23年3月15日（東日本大震災の4日後）の22時31分頃に発生。それからいかに富士山が危ないぞという話になってきたんです。

ダニエル 富士山火山ハザードマップを見ると、市の中心部がほとんど被害に遭いますね。避難しなければならないとなったら、どうするんですか。

加藤副団長 とりあえず高台に逃げることになるでしょうね。ハザードマップで、危険な地域として塗られていない所です。

ダニエル 東日本大震災の被災地で話を聞きましたが、やっぱり大きい津波が起きたらどうしようもないので、逃げるしかないそうです。あらかじめこのようなマップでプランニングしているのは、安心ですね。

吉田主幹 このハザードマップでは、エリアを10数か所に分けて、山の流れに沿って、シミュレーションをしています。このマップは、ホームページ上で公開されています。

（注）ご覧になりたいかたは、次のアドレスまでアクセスしてください。

<http://www.city.fujinomiya.shizuoka.jp/bosai/hazardmap.htm>（富士宮市 HP 内）

ダニエル 話が戻りますけど、3月15日の地震はかなり大きなものでしたが、被害状況はどうでしたか。

吉田主幹 大きな倒壊事故は幸いありませんでしたが、市役所6階の天井が落ちたり、山間部のテニスコートに地割れが出来たり、家の瓦が落ちたりなどの被害がありました。

ダニエル 市民は、パニックにはならなかったのですか。

仲神課長 3月11日に大震災があったこともあって、わりと皆さん冷静でした。

加藤副団長 東海地震の関係で、自主防災組織などが地域で普段から訓練しているのが役に立ったということもあるかもしれません。

吉田主幹 火災や大きな倒壊事故もなく、死者もなく、軽傷者が数名出た程度で済んだのが幸いでした。

ダニエル 訓練を頻繁に行っているのがよかったのでしょうかね。海外の新聞は、みんな、びっくりしてました。東日本大震災の後、日本人が慌てず騒がず、喧嘩もしないできちんと並んで物資を受け取っている姿には、感心していました。でも、日本では普通のことでしょね。



市役所6階の被害状況（平成23年3月15日）

噴火等に対する防災訓練について

ダニエル 噴火対策としての防災訓練は何かしているのですか。

加藤副団長 全般的な防災訓練として行っています。例年、9月1日の防災の日には、消防団本部に集まって、消防団独自の無線機を使って、28分団と状況を報告し合いながら、図上訓練を行っています。昨年の9月には台風が来ていて、本番の活動を行いました。無線機を通して、巡回を行っている各地域の消防団から情報がこの本部に入ってきました。倒木がひっかかって橋を壊している、落石があった、電線が切れているなどなど。それらに対して対応を指示するなど、本署と連携を取り合いながら活動しました。現場サイドでは、消防団員が大活躍したと思います。

ダニエル (東日本大震災の) 被災地で話を聞くと、災害時は、携帯が不通になってしまって大変だったそうです。無線の整備は重要なことですね。

加藤副団長 富士宮市では、無線関係の整備は徹底しています。

ダニエル その他はどんな訓練をしていますか。

加藤副団長 富士宮は河川が多く、大雨によって河川の氾濫被害がよく起きるので、土のう積みなどの水防訓練を隔年で行っています。山間部では、林野火災対策の訓練も定期的に行っています。

ダニエル 富士山の噴火と地震は、全国的に気になっているところだと思います。

吉田主幹 噴火と地震をいっしょくたにする人が多いのですが、地震の後、すぐに噴火す

ることは、まずないといわれています。単体の噴火について言えば、突然、今夜から噴火するかという、それはありえないと思います。仮にほんとうに噴火するという事になった場合、少なくとも1か月前には異常が出始めると思います。地震のように、突然起きるということはないらしいですからね。地震と噴火をセットでごちゃまぜにして、怖い怖いとばかり言っていてはいけないと思います。

ダニエル 台風も天気予報などで数日前から来るとわかるので、準備できますよね。

吉田主幹 噴火も相当の時間的な余裕はあるはずですよ。



9月1日の防災訓練の指揮本部



平成23年9月の台風被害

仲神課長 長崎県の雲仙普賢岳の例を見ると、避難指示がいちばん大事ですよ。

加藤副団長 人を逃がすことがなにより大事です。

ダニエル 津波と似ているところもあって、警報が来た、避難しましょうということを数十回も続けていると、どうせ来ないだろうと思ってしまう人も出てくるそうです。市民を脅かすすぎないようにしなければならないのが難しく、微妙なところですよ。言い過ぎると、またまたまた、と本気にしないし、言わないとなんで教えてくれないんだと叱られる。言い過ぎても文句を言われるし、じゅうぶんと言わないと文句を言われる。公の仕事をしている皆さんはほんとうに大変ですね。

静岡は昔から地震が多いといわれているそうなので、慣れていているところもありますか。

吉田主幹 なんとなく覚悟しているところはあるかもしれませんが。この前行われた静岡県の消防団員意見発表会では、副部長に地震発生の時の団員の覚悟を話してもらいました。

後藤副部長 3月15日の地震の話を題材に意見発表をしました。当時、地震が起きたので現場に出ようとしたところ、家族に「私たちをおいていくの」と言われましてね。団員のなかには、子どもに服をつかまれ、「行かないで」とせがまれて、なかなか出動できない者もいました。深夜の発生でしたしね。

加藤副団長 深夜の発生ではあったけど、さっきお話したとおり、市民の皆さんはわりと冷静でした。計画停電中でもありましたし、緊張感があったからかな。

ダニエル やはり、日頃の訓練のたまもので

すね。大事なものは、日頃の訓練と、情報。地震はときどきやってきますから。災害時の対応についての情報が、しっかり市民に伝わっていて、実際に起きたらどういう行動ができるかが大事なことです。

仲神課長 毎年12月の第1日曜日は、地域防災の日として、地域で防災訓練を行っています。

後藤副部長 各地域の分団が自分の行政区で、地域のかたといっしょに訓練を行っています。そこでは、学生への指導も行っています。炊き出し、避難訓練、救命講習など、地域ごとに趣向を凝らしてやっています。

ダニエル 準備万端ですね。

吉田主幹 消防団員のかたには、救命講習を指導できる応急手当普及員という資格を取ってもらっています。以前は救急隊員が地域ごとに何人も出向いて教えなければならなかったのですが、去年からは資格を取った消防団員が各地に行き、指導者の補佐をして教えられるようになりました。消防団員がAEDなどを自分で使えるだけでなく、人に教えられるようにしていくことで、地域に防災情報が伝わっていくと思います。

ダニエル そうでないと広まらないですよ。



救命講習

これからのこと

ダニエル 最後に、消防団の副団長として、これから消防団としてやりたいこと、抱負などをお願いします。

加藤副団長 機械的な整備はもちろん必要なことですが、自助・共助・公助という言葉がありますよね。自助、自分を助けること。共助、ともに助けること。公助、公に助けること。まず、自分を助けること、つまり、自分の命を守ること、死ぬなよということですが、そういうのを順序だてていき、初めて公助、消防団としての活動ができると思います。そのためには、団員個人の資質を上げていくしかないと思います。こういう個人が集まって初めて一つの力となると思います。そういうことを常々心がけていきたいです。昨今、地震や噴火など、いろいろと騒がしいので、パニックにならないよう、じゅうぶんに備えていきたいですね。

(注) 富士宮市では、第3次地震被害想定を基に「地域防災計画」を策定していますが、今後

は、第4次地震被害想定が6月に公表予定であり、それに合わせて計画を修正していく予定です。

対談を終えて

なんでもそうだと思いますが、きちんと情報を持っている人がたくさんいればいるほど、みんなが落ち着いて正しい行動ができると思います。富士宮市消防団の試みで、市民の皆さんに防災情報がどんどん広まっていけばいいですね。今も日本は治安が良くて暮らしやすい国ですが、富士宮市の皆さんのお話を聞いていると、もっともっとそうなるような気がしました。

阪神大震災や東日本大震災を経て、ボランティア精神が広まってきていると感じます。ふだんの生活のなかで何ができるかというときに、これが消防団員になることだと考えてもらえたら素晴らしいですね。

富士宮市消防団員の皆さんのいっそうの御活躍をお祈りします。

(ダニエル・カール)



平成 25 年富士宮市出初め式 (市長賞受賞作品)